

小論文

平成 29 年 度

入 学 試 験 問 題

受 験 番 号	
---------	--

注 意 事 項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- (2) この問題冊子は2ページあります。問題は2問(問1, 問2)あります。
試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどに気づいた場合は、手を挙げて、監督者に知らせてください。
- (3) 問題冊子の表紙の受験番号欄に受験番号を記入してください。
- (4) 解答用紙には、氏名、受験番号の記入欄があります。それぞれに正しく記入してください。
- (5) 問題冊子のどのページも切り離してはいけません。
- (6) 辞書機能や計算機能、通信機能などをもつ機器等の使用は禁止します。使用している場合は不正行為とみなします。
- (7) 試験終了後、解答用紙はもちろん、問題冊子も持ち帰ってはいけません。

次の問に答えなさい。

(ア)健康長寿社会を実現するためには、医師、薬剤師、看護師などの医療提供者のみでなく、社会のあらゆるセクターの人々が、意識を変えていかねばならない。医学の歴史が始まってからずっと、大部分の医師は人々が病気になるのを待って対応してきた。また現在の健康保険制度も、病気の予防のために使用することは認めてこなかった。そして一般の人々もまた、なんらかの異常がないかぎり、医療機関は近づきたくない存在であった。

これに対してライフコース・ヘルスケアを実現するためには、医療提供者は従来のような受け身の姿勢ではなく、より積極的にコミュニティのなかに入って行って、健康長寿の推進と、必要に応じた先制医療の実現のために、先導的な役割を果たさなければならない。そのためには、政府、自治体、企業、さまざまな団体(NPO 法人など)、そして最終的には個人が、この動きに参加してみずからの健康を守り、健康な長寿を達成するために努力することが求められる。

すべての人が、病気のことは医療機関任せという姿勢を捨て、自覚と責任感を持って、この社会を挙げてのパブリック・ヘルス実現のための体制に参加していくようにしない限り、健康長寿社会は実現できないし、私たちが直面しようとしている極端な少子高齢社会の困難な問題を乗り切ることはできないであろう。

政府に求められることは、疾患の治療から予防へと、より大きく舵^{かじ}を切っていくことである。現在、予防はすべて個人の負担であるが、医療提供者の積極的な予防あるいは先制医療への参加をうながすためには、予防に対する健康保険の適用を段階的に考えていくべきである。予防が実現できれば、大変大きな医療費の削減が期待できる。またあらゆる手段を用いて、予防の重要性を理解させる活動をするべきである。

さらに高齢者がフレイル*から要介護状態に陥らないようにするためには、適切な食事と運動が必要である。もちろん医療提供者側の協力が不可欠であるが、これを実現する主役は個人であり、コミュニティである。自治体は市民のそうした活動を支援する体制を作るべきであろう。

こうした目標を達成するために、健康教育が何よりも必要である。小学校から大学まで、それぞれの発達に応じて健康教育を実施しなければならないし、社会に

においてもさまざまな機会を通して健康教育の普及に努めねばならない。(イ)健康長寿社会は一人ひとりが主役であるという自覚と努力がない限り、実現できないものである。

(井村裕夫『健康長寿のための医学』 出題の都合上、一部改変がある。)

*フレイル：健常な状態と要介護状態(日常生活でサポートが必要な状態)の中間の状態

問 1 下線部(ア)「健康長寿社会」とはどのようなものか、200字以内で述べよ。

問 2 下線部(イ)について、600字以内であなたの考えを述べよ。